6章　総合問題6

問題

【1】

A.

全訳

原始社会において，自分の好きにさせられていたとしても，小作農たちは騎士や僧侶たちの生活の糧となっていたわずかな余剰生産物を手放したりせずに，生産量を減らしたか，消費量を増やしたかのどちらかにしたであろうことは明らかである。

B.

全訳

一般に機械は２つの部類に分けることができる。１つの部類は，周囲で起こっていることとは完全に独立して自分の仕事をする機械から成る。この種の機械は周囲から完全に絶縁されていればいるほど，その機能をうまく果たす。時計はこの種の機械である。時計は天候に影響されることが少なければ少ないほど，よい時計なのである。もう一方の部類の機械は，周囲のある種の変化に対してできるだけ敏感に反応する働きを持つ機械から成る。気圧記録計はこの種の機械である。時計の場合には長所となるものが，気圧計ではまったくの欠陥になってしまうだろう。

【2】

ポイント

地球外生命体の存在の可能性について論じている３つの理論の主張と，筆者の考えを適切にとらえることが重要である。

解答

（1）ⓐ **c**　ⓑ **b**　ⓓ **a**

（2）生命の進化へとつながる過程は非常に複雑で，たった一度でさえ生じたということが特異なことであって，同じ一連の過程が再び起きることはあり得ないと考える理論。

（3）惑星とその太陽との距離が適切であること，適切な重力があること，化学物質と物理的現象が適切に組み合わさること，および水と大気が存在すること。

（4）ⓕ convergence　ⓖ plenitude

（5）It is unlikely that there is life outside the earth.

解説

（1）ⓐ空所の直前には there are so many star systems in the universe that it is unlikely that only earth would bear intelligent life（宇宙には多くの恒星系があるので，地球にだけ知能を持った生命体が存在するとは考えられない）とある。一方，空所の直後には it could be considered human arrogance to think that we are the only intelligent life in all of space（全宇宙において我々が知能を持った唯一の生命体で

あると考えるとしたら，それは人間の傲慢さと考えられるだろう）とある。両者はいずれも地球外生命体の存在を肯定する内容だが，後半の方が強い表現になっていることから判断して，前言を強く言い換える場合に使われる副詞 Indeed（実際；いやそれどころか）が正解。

Ex. I know it. Indeed, I am sure of it.

（私はそれを知っている。いやそれどころか確信している。）

なお，空所を含む文でcouldが使われているのは, to think that … に含まれている「…と考えるとしたら」という仮定の気持ちを受けて，仮定法過去が使われたものである。

Ex. To hear her speak English, you *would* take her for an American.

（彼女が英語を話すのを聞いたら，アメリカ人だと思うだろう。）

ⓑ空所の前々文に two different species are faced with a problem and independently arrive at the same solution（２つの異なる種がある問題に直面し，それぞれ独自に同じ解決策に達する）とあり，その具体例として空所の前文でコウモリと鳥の翼の例が述べられ，さらに空欄を含む文では，タコとイカのカメラのような目がもう１つの例として挙げられている。したがって Similarly（同様に）が正解。

ⓓ空所の直前では They consider it extremely unlikely that the same set of processes could ever occur again（同じ一連の過程が再び起きるなどということは極めてあり得ないことだと彼らは考えている）と偶然性理論を支持する人々の考えを挙げ，空所に続く文では he himself recognizes that even the basic conditions for life may be rare in the universe（彼自身も，生命体のための基本的な条件でさえ宇宙ではまれなものだと認めている）と多数理論にくみするモリスの見解を紹介して，偶然性理論の妥当性を別の観点から補強している。つまり，空所以降では前述の内容に関して新たな情報を追加しているので，Furthermore（さらに）が正解。

（２） contingency theory の支持者の主張は第３段落第２文に life is a happy accident（生命体の発生は幸せな偶然である）と簡潔に述べられているが，これだけでは内容がわかりにくい。第３文，第４文に詳細に記述されているので，この部分を簡潔に説明すれば，解答はできあがる。なお，第４文は第３文を言い換えたものなので，解答には含めても含めなくてもよいだろう。

（３） 下線部は「生命にとって必要な正確な条件」の意である。これについては次の文で述べられているので，other planets will be exactly the right distance from their sun, with the right gravity, the right combination of chemicals and physics, with water and atmosphere の箇所を日本語で簡潔にまとめればよい。

（４） ⓕ，ⓖともに後ろに theory「理論」という語があることから，本文中に現れる plenitude theory，convergence theory，contingency theory のいずれかが関係していると考えられる。

ⓕ nature tends to *reproduce the same outcomes*（自然は<u>同じ結果を再生産する傾向がある</u>）とあることから判断する。自然は繰り返す傾向があるという考え方の convergence（theory）が正解。

ⓖ the *multiplicity of star systems* increases the likelihood of life outside the earth（恒

星系の多様性が地球外生命体の存在の可能性を高める）とあることから判断する。恒星系の多さから知的生命体の存在可能性を論じているのは plenitude theory であるから，空所には plenitude が入る。

（5） 前半では plenitude theory と convergence theory が，どちらも地球外の生命の存在を想定していることを紹介した後で，その存在が疑わしいとする contingency theory を紹介している。その上で，最終段落で筆者の見解が述べられるというのが全体の構成。したがって，最終段落の冒頭 It is unlikely that there is life outside the earth. という文が筆者の見解を示しているものと解することができる。なお，最終文も筆者の考えではあるが，設問文に「最も簡潔に述べた文」という限定があるので，この文は解答にならない。

全訳

他の惑星に生命体がいるなどと考えたら，人々が笑ってしまうというような国がある。宇宙の他の場所にも生命は存在すると信じているだけでなく，それと交信しようと努力している人が住んでいる国もある。この問題に関して，疑いを持つ人と信じ込んでいる人が存在するのは確かである。

地球外にも生命が存在することを支持する１つの伝統的な主張は，多数理論として知られているが，宇宙には多くの恒星系があるので，地球にだけ知能を持った生命体が存在するとは考えられないというものである。それどころか，全宇宙において我々が知能を持った唯一の生命体であると考えるとしたら，それは人間の傲慢さとも考えられるであろう。もう１つの，最新の，より説得力のあるもう１つの主張は，収束理論から来ている。収束理論とは，２つの異なる種がある問題に直面し，それぞれ独自に同じ解決策に達する状況を指す。例えば，コウモリと鳥はどちらも飛ぶために翼を進化させた。同様に，タコとイカはカメラのような目を持っている。これらの種は別々に進化して，独自に適応するようになったのである。サイモン・モリスは，自然は一度何かを生み出せば，再びそれを生み出すものだと主張した。これらすべてのことが示唆しているのは，宇宙には無限の可能性があるとはいえ，自然は繰り返す傾向があるということなのだ。

他方，偶然性理論という別の理論を支持する人々は，他の惑星に生命が存在する可能性はないと論じている。彼らの主張は抗しがたいものだが，生命体とは幸運な偶然によって生まれたものだというものである。生命の進化へとつながる過程は非常に複雑なものであり，一度でさえ生じたということが特異なことだと彼らは主張する。同じ一連の過程が再び起きるなどということは極めてあり得ないことだと彼らは考えている。さらに，モリスは自然は繰り返す傾向があると論じているが，彼自身も生命体のための基本的な条件でさえ宇宙ではまれなものだと認めている。自然にその意思があっても，条件は適切なものではないかもしれない。生命に要求される正確な条件は二度と見つからないかもしれない。他の惑星がその太陽からまさにぴったりの距離にあり，うってつけの重力や化学物質と物理的現象の適切な組み合わせ，そして，水と大気がそろっているということはあり得ないことである。

地球の外側に生命が存在するということはありそうにもない。100 年余りにわたり，生命の兆候を求めて宇宙を探索するのに電波が使われてきたが，これまでのところ何も発見されてはいない。どこかに知能を持った生命が存在するのなら，これまでになんらかの兆候を認

めていたことだろう。収束理論は自然は同じ結果を再生産するということを示唆し，多数理論は恒星系が多くあるために地球外生命体が存在する可能性が増すと論じているが，これらの論議に十分な説得力はない。生命自体の条件は脆弱で複雑なので，生命が一度でも生まれたことは目を見張るべきことである。まして，どこか別の場所でそれが繰り返されるなどあり得ないことなのだ。

注

ℓ. 4 ◇ plenitude *n.*「完全；豊富」
ℓ. 6 ◇ arrogance *n.*「傲慢」
ℓ. 8 ◇ convergence *n.*「収束」
ℓ. 11 ◇ squid *n.*「イカ」
ℓ. 15 ◇ contingency *n.*「偶然（性）」
ℓ. 16 ◇ compelling *adj.*「強制的な；抗しがたい」
ℓ. 27 ◇ uncover ～ *vt.*「～を発見する」
ℓ. 29 ◇ outcome *n.*「結果」
ℓ. 30 ◇ multiplicity *n.*「多様性；多数」
ℓ. 32 ◇ much less …「まして…ない」

【3】

A.

解答

(a)（1） I wish I could speak English as well as Ishihara does.（did が不要）
（2） It is about time I was leaving.（were が不要）
（3） Were it not for language, man could not communicate thoughts and feelings.
(b)（1） I wish it would stop raining.
（2） If only he had told you the whole story!
（3） I suggest that the meeting be postponed.

解説

(a)（1） 日本文から，話者は石原君のようには英語が上手に話せないことがわかる。したがって，‘I wish ＋仮定法過去’の形を用いることがわかる。問題は，「石原君のように上手に」のところ。… as well as Ishihara *did* としてしまった人はいないだろうか。石原君は現実に上手に英語を話すのだから，動詞は仮定法ではなく，直説法にすべきである。したがって，… as well as Ishihara *does* が正解。仮定法とは，動詞の形をいうのだということを確認してほしい。
（2） 「そろそろ…する時間です」に対応する，it is about time S *did* …を用いればよい。この場合，Sに続く動詞は本来は仮定法だったのだが，主語が I の場合は，were ではなく was が用いられるのが慣用なので，過去形がくると覚えておく方がよい。したがって，It is about time I *were* leaving. ではなくて，It is about time I *was* leaving. となる。
（3） 素直に考えれば，条件節の部分は *If* it *were* not for language, …となるが，これ

では２語不足となってしまう。そこで，If を省略した倒置の形を思い出し，*Were* it not for language, …とすればよい。

「思想や感情を伝達する」は communicate thoughts and feelings とする。

(b)（１） 'I wish ＋仮定法過去' の形を用いればよいが，I wish it stopped raining. としてしまった人はいないだろうか。これでは残念ながら間違いである。なぜなら，この英語だと，It *does* not stop raining.（常に雨は降り止まない → これまで一度も雨が止んだ試しがない）という前提が成立してしまうからである。この問題のように，「その場限りの場合」を述べている文では，前提に It will not stop raining. があると考えて，I wish it *would* stop raining. としなくてはならない。

（２）「～に一部始終を話す」は tell ～ the whole story とするか，tell ～ all about it としてもよい。この日本文を最も普通の英語に訳せば，'I wish ＋仮定法過去完了' の形を用いて，I wish he *had told* you the whole story. となるが，ここでは If で書き出すという条件があるので，If を用いて I wish … と同じ意味になる表現を知っているかどうかが問題になる。結論を言うと，'If only ＋ 仮定法過去完了!' の形式を用いることになる（この場合，感嘆符を用いるのが慣用）。したがって，*If only* he had told you the whole story! となる。あるいは，only は副詞なので後に置いて，*If* he had *only* told you the whole story! とすることもできる。

（３）「会」は meeting（会合），gathering（集まり），party（パーティー），assembly（集会）など，「延期する」は postpone，put off を用いる。ここでは I suggest で始めるという条件なので，suggest の文型を問うている問題と考えられる。suggest は，suggest（that）S（should）…（Sが…することを提案する）という文型をとるので，これを当てはめればよい。したがって，I suggest（that）the meeting（*should*）*be* postponed. となる。「**解答**」では仮定法現在を用いた I suggest that the meeting *be* postponed. の方を挙げておいた。

B．

解答例

（１） I would invite foreigners living in our town to class and ask them to talk about their culture.（私たちの町に住む外国人を招いて，彼らの文化について語ってもらうように頼みたい。）（18 語）

（２） I would have the children make a website which introduces our school.（子供たちに学校の紹介をするウェブサイトを作らせたい。）（12 語）

別解

（１） I would teach children about eating habits in other countries and later actually cook some foreign dishes with them.（子供たちに外国の食習慣について教え，その後で実際に子供たちと一緒にいくつか外国の料理を作りたい。）（19 語）

（２） I would have the children try to make TV commercials for the clubs they belong to.（子供たちに自分が所属しているクラブのテレビコマーシャルを作らせたい。）（16 語）

解説

（1） まず，会話文を追っていこう。Aが「『総合的な学習』の時間について何か知ってる？小学校の義務教育のカリキュラムの１つなんだけど。」と口火を切っている。Bが「知っているよ。子供たちがいくつかの教科にまたがることを学習する学際的な授業のことだろう？」と応じている。Aは「その通り。テーマは国際理解，情報，環境，健康，福祉のいずれかに関係しなければならないんだ。面白そうじゃない？ 例えば，君が教師だったら，授業でどんな活動をやる？」とBに問いかけている。Bは「僕は子供たちは外国の文化についてもっと知るべきだと思うんだ。」と答えている。この後にくるBの授業案が（1）の解答となる。直前の内容を受け，子供たちが外国文化について学べるような授業案を考えよう。

○「…するだろう」would …。If I were a teacher, という仮定法の条件節が与えられているので，それに合う帰結節の形にすること。

○「Oを～に招く」invite O to ～

○「Oに…するように頼む」ask O to …

○「習慣」habit

○「実際に」actually

（2） 会話をさらに追っていこう。Bは自分の答えを言った後に「君ならどうする？」と尋ねている。Aは「ちょっと考えさせて。僕なら何か情報に関係あることにするな。これが僕のアイデアだよ。」と自分のアイデアを語っている。これが（2）の解答となる。直前の内容を受けて，情報に関係する授業案を提示すること。「情報」と聞いて悩んだ人もいるかもしれないが，インターネットや携帯電話などのコミュニケーション手段や，新聞やテレビなどのメディアに関連したテーマを考えればよいだろう。（2）の後に，Bが「それは面白いと同時に意味のあることだね！」と感想を述べているので，子供たちが楽しく活動できて，教育上も意義深い授業案を考えよう。

○「Oに…させる」have O …

○「～を紹介する」introduce ～

○「ウェブサイト」website

○「テレビコマーシャル」TV commercial

【4】

解答

（1） **h**　（2） **d**　（3） **i**　（4） **b**　（5） **g**　（6） **f**

解説

（1）「たとえ君が頼んでも，フランクは明日そんなに早く来られないだろう。」
仮定法過去。文脈から「来られないだろう」という内容になるものを選ぶ。
asked him to *come so early tomorrow* と内容を補って考える。
繰り返しを避ける代不定詞の用法。

（2）「私は先生に言った。『宿題を全部できなくてごめんなさい。』」**d**
「私は先生に言った。『宿題を全部できないでしょう。ごめんなさい。』」**h**

直説法。文脈から否定の内容がくる。

d の現在完了形, **h** の婉曲表現が可能だが，同じものを重複して使ってはいけないので，答えは **d**。

本文のように過去を表す文脈との対比がない状態で，単独で過去完了を用いることはないので，**f**　hadn't been able to は不適。

（3）「この内野手がもう少し上手くプレーしていたら，彼らは勝てただろうと私は思う。」

仮定法過去完了。文脈から「勝てただろう」という内容になるものを選ぶ。

（4）「夫の稼ぎがあまりよくないので，彼女はこの３年間新しいドレスを１着も買えなかった。」

直説法。文脈から「買えなかった」という内容になるものを選ぶ。

現在完了形。三人称単数を受ける動詞のものを選ぶ。

（5）「昨日腕の怪我をしていなかったら，ボブは明日バスケットボールをすることができるだろうに。」

条件節は仮定法過去完了で，帰結節が仮定法過去になる形。

（6）「その少年は川に落ちた。もし彼が泳げなかったら，溺れ死んでいただろう。」

仮定法過去完了。文脈から「もし泳げなかったら」という内容になるものを選ぶ。

【5】

解答

（1）なし　（2）**a**　were　（3）**a**　had studied

（4）なし　（5）**c**　would find〔**a**　If I had had〕

解説

（1）「高級ホテルなんかに泊まってはいけないと彼女は言い張り，彼女の夫もしぶしぶ同意した。」

a，**b**　insist that S（should）…「Sが…することを主張する」

○ stay は仮定法現在。

c　stay out of ～「～から外に出ている；～と関わりを持たないでいる」

d　and の等位接続詞で結ばれた節なので，時制は insisted と同じ過去形でよい。

○ reluctantly「いやいやながら」＜ reluctant

（2）「もし君が部長であれば，誰を社会福祉〔救済活動〕委員会の委員長に指名するだろうか。」

a　仮定法過去の条件節の動詞。are → were とする。

b　whom「誰を」動詞または前置詞の目的語の疑問詞。

口語の場合，文・節の初めでは，Whom の代わりに Who を用いることが多い。

Ex. Who are you meeting tonight?

（あなたは今夜誰に会うことになっているのですか。）

c　仮定法過去の帰結節の動詞。

○ appoint O（to be；as）C「OをCに指名する」

d　Cが唯一の役職の場合は通例無冠詞。

（3）「もしこの試験のために勉強していたら，メダルを勝ち取ることができただろう。しかし実際はしなかったが，とてもよい成績だった。」

a　仮定法過去完了の条件節の動詞。would have studied → had studied とする。

b　仮定法過去完了の帰結節の動詞。

c　as it was　*cf.* as it were（言わば）（挿入句）

d　even「…でさえも」

（4）「もしあなたがその件を調査してできるだけ早く返事をしていただけるなら，大変ありがたいのですが。」

a　仮定法過去の帰結節の助動詞。

b　it は if 以下の節の内容を受ける。

c　「もし…していただけるならば」will の仮定法過去で婉曲。

d　at your earliest convenience「なるべく早く」

○ appreciate ～「～をありがたく思う」

○ look into ～「～を調べる」

（5）「もしその小説を読む時間がもっとあれば〔あったら〕，もっと面白いと思うだろう〔思っただろう〕。」

a, c　仮定法過去の文にするなら，**c** を would find に，仮定法過去完了の文にするなら **a** を If I had had にする。

b　time を修飾する形容詞用法の不定詞句。

d　interesting の比較級〔目的格補語〕。